

■ある人は地球を海の多い惑星と見て、

ある人は地球を虫の多い惑星と見る

修正： 2024.02.01

投稿： 2024.02.01



●ある人は地球を海の多い惑星と見て、

ある人は地球を虫の多い惑星と見る①

「人は見た目じゃない、中身だ！」

と言われております。その一方で、

「何はともあれ第一印象が大切だ！」

と叫ばれております。

普段から愛想よく振る舞っていても、

何気ない一言であっさりと

人間関係は冷めていってしまいますから、やはり、

見せかけだけの誠実さでは、そのうち

化けの皮も剥がれてしまうものなのでしょう。

その一方で、営業のような外向きの人間からすると、

お客様から良い印象を抱いてもらえなければ

そもそも商談に発展することもありますから、

一にも二にも第一印象を良くしていかなければなりません。

で、見た目と中身、どちらを優先すべきでしょうか？

以前、清潔なビジネスマンの服装をした人と、

不潔なホームレスの服装をした人に、

それぞれ通行人の前で転んでもらい、

どちらが周囲の人から手を差し伸べてもらえるかを調査する、

という実験が行われました。

(結果は予想通りです)

「人は中身じゃない、見た目だ！」ということが、

この実験結果からは言えそうです。

やはり見た目が大切、という話です。

でなければ中身なんて誰にも見てもらえないのですから。

かと言って中身を疎かにすると、結局、

人間関係が行き詰まって関係が破綻します。

化けの皮が剥がれるからです。

さてさて、見た目と中身、どちらを優先すべきでしょうか？

(続)

//=====//

●ある人は地球を海の多い惑星と見て、

ある人は地球を虫の多い惑星と見る②

「地球」がどんな星か一言で説明できますか？

当サイトでは「原理・原則」を説明しておりますが、

幅広く説明していれば、一見して

矛盾しているようなことも述べざるを得ません。

あるときは「与えなさい」と説き、

またあるときは「見捨てなさい」と説くものですから、

「いったいどっちなんだ！」と、

疑問をもたれてしまうことでありましょう。

もし宇宙人が地球に旅行しに来ることがあれば、

地球について、海の多い惑星だとか、虫の多い惑星だとか、

さまざまな印象を抱くに違いありません。

アフリカ大陸を訪れた宇宙人であれば、

「地球は暑くて、やたら砂の多い星だ！」

と思うことでしょうし、はたまた、

南極大陸を訪れた宇宙人であれば、

「地球は寒くて、氷ばかりの星だ！」

と思うことでしょう。

あるところを見れば大海原でも、

別のところを見れば大都会です。

どれも正しく地球の姿です。

されどそれは地球の**一部**にすぎません。

これは何でもそうで、数学にしろ、宗教にしろ、

全体を把握することはなかなか難しいですから、

「地球は暑い！」という人がいれば

「地球は寒い！」という人もいるように、

一見して**矛盾**しているように感じられる点は多々あります。

例えば、ある体系では $1+1=2$ として計算する一方で、

別の体系では $1+1=0.5$ として計算していたりします。

しかし頑張って勉強していると、徐々に慣れてきます。

そういうものです。はい。頑張ってください。…。

(続)

//=====//

●ある人は地球を海の多い惑星と見て、

ある人は地球を虫の多い惑星と見る③

「素数に規則性はあるのかないのか？」

「物質は粒子なのか波なのか？」

「神は存在するのかしないのか？」

...

こうした難問のように、

それが正しいか正しくないかよく**分からない**とき、

人は**願望でどちらかに決め付ける**悪い癖があります。

(事実と願望のすり替え)

あってほしいと思っている人は

「ある」と答えますし、逆もしかりです。

そもそも、世の中の事実については、

分かっていないことの方が多く、ゆえに、ほとんどのことは

願望によって決められているとすら言えます。

この「願望で決め付ける」というのは、

人が人の**悪口**を言う場合にも当てはまります。

例えば、「**あいつはバカだ！**」と言う心の裏には、

「あいつはバカであってほしい！」という**願望**があります。

もし「善いのか悪いのか」が分からないような場合は、

その人が善人であってほしいなら「善人だ！」と言い、

悪人であってほしいなら「悪人だ！」と言うのです。

「どうせあいつは消える！」と噂されるのも、

そうなってほしいから、です。そうして勢いを失えば、

「もうあいつは消えた！」と噂されます。

早くそうなってほしいから、です。もし勢いを取り戻せば、

「いつかあいつは消える！」と再び噂されます。

やはりそうなってほしいから、です。

(続)

//=====//

●ある人は地球を海の多い惑星と見て、

ある人は地球を虫の多い惑星と見る④

人が人を評価する場合、普通は、
大いに「好き嫌い」や「偏見」が
含まれているものです。

学校の成績であれば、テストの点数で評価されますから、
学生の努力次第でいくらでも評価は上げられます。
それに何より、教師の好き嫌いは含まれませんから、
教師に嫌われてしまってもテストの点数には影響しません。

しかし、職場における人事評価や出世においては、
上司に「好かれているかどうか」で評価が決まる、
と言っても過言ではありません。

この点については、多くの人が、
理不尽に思うところでしょう。というのも、
大抵の人は、学生時代に、
そのような理不尽な評価をされたことがないからです。

ようは、理不尽な評価に慣れていない、
ということです。よって、そういう人は、
「評価に好き嫌いは反映されるべきではない」と考え、
不満に思う傾向があります。が、それは不可能です。

仮に「私は好き嫌いで評価はしません！」と
言い張る人がいたとしても、人を評価する以上、

好きな人に対しては、その人の良いところ
を積極的に見ようとし、嫌いな人に対しては、
その人の悪いところに自然と目が行くものです。

これは仕方がないことです。人間である以上、
評価には願望が含まれてしまうのですから。
(「見たいように見る」の原則)

そして、それが良いとか悪いとかではなく、
そもそもそういうものなのだ、という話です。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)